Japanese Association of Educational Psychology

のような社会観をもつているかを調べようとした。というのは，学校から巣立つていく青年が自分の飛び込んでいく社会をどのようにみているかは，教育活動にとつて重要だと考えられるからである。

2. 調査の種類　成人をどのようにみているか（成人観），世間をどのようにみているか（世間観）の2種類。

3. 調査の対象　中学3年生が主対象であるが，結果の比較のために，小学校6年から高校3年まで調査。

4. 調査の結果　現在の段階は，まだ，質問項目作成の過程であり，項目の検討をすることが中心である。この際，地域別，性別，年齢別などによる異同が手がかりとなるのである。

高校生のもつ理想的人間像（Ⅱ）
——友　人　像——

山　根　　薫（埼玉大）

質問紙によつて昭和35年1月に，1074名の女子高校生に答をもとめた。

1. かれらのもつ友だちの数，青年中期にあるかれらの友だちの範囲はどの程度であるか。Ⅰ群（1人つ子）Ⅱ群（女きようだい）Ⅲ群（男女きようだい）ともに同性の友だちの数は，5人というのが，最多頻数を示している。ついで10人，3人，2人という順であり，11人以上という頻数も多い。

2. 異性の友を，もつている女子高校生は1年19%，2年30%，3年25%で，上級生になると多くなる。その異性の友の性格特徴の第1は「明朗・活発」，第2，第3に「おとなしさ」「男らしさ」「寛容」をあげる。

3. この友の性格に満足しているか。といえば，69%のものは好ましく思つているが，さらに理想に近いものを求めるものが61%で，現実を越えて理想の姿を求めている。

現代学生の社会意識調査（1）
——予　備　調　査——

○浅　見　千　鶴　子（お茶の水女子大）
斎　藤　耕　二（東　京　教　育　大）

現代の学生の種々な面の社会意識の実態を把握するための予備調査で，いろいろの問題に自由記入法で回答を得，学生の意見態度を得る手がかりとした。質問事項は社会状勢，学生運動，大学のあり方，自治の問題の4つの方面にわたり全21項の問題を作成，国立大学2校，私立女子大学1校（100部ずつ）に配布した。回収率は低く整理に使用しえたものは全部で78名であつた。

結果は標本の不十分なところから全学生の代表とはいえないが，いろいろな意見が得られたところには意義がある。その主な意見として社会の現状に対する否定的傾向，学生運動に対する批判，大学生活に対しては人間形成，社会人としての成長の場を考え，教師に対して知識の伝達よりも人間的接触，交流を切望したものが多い。自分の問題は自分達の自治活動，学生大会には熱心に考えていることがわかる。

討論の概要

所定の討議の時間が，各発表者に対する個別的な質問（目標設定に関するもの，整理方法に関するもの，結果の解釈に関するもの，研究方向に関するもの，など）に費やされたため，この部会としての総括的な「討議」にまでいたらないうちに，時間切れとなつた。したがつて，遺憾ながら，特記すべき討議の成果はみられなかつた。（村瀬隆二）

家族関係

児童の絵画に関する研究

仁　平　教　子（統計数理研）

児童が日常家族や他の人についてどんな像や印象を描いており，またどんな感情をいだいているか。また好きな人，きらいな人とはどんな人であつてどう表現するかを環境との関連から研究しようとした。

都内で商業的地域とされている区立のある幼稚園の園児を対象にして250人に父，母，好きな人，きらいな人を描かせた。また環境調査を記録して次の条件に合うものを取りあげた。①好きな人，きらいな人が完全に対になつているもの，②全身描いてあるもの，③環境資料の完備しているもの。上の3つの条件に合うものは100ケースしかなかつた。これを環境との関連において考察した。全体的に環境との差はあまりないように思われるが，性別・年齢別を通じて好きな人の絵はやさしく，またはまじめにまたは笑顔に描き，きらいな人では恐ろしく，またはおこつているようにまたは，泣いているように描く傾向があるのではなかろうかと思われる。

ドル・プレイ法に関する基礎的研究（その1）

依田　新・○古沢頼雄・筒井健雄・
吉田泰子（東京大）　柏木恵子（東京女子大）

本報告は，昭和33・34年度文部省科学試験研究費をう

NII-Electronic Library Service